

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-63832

(P2010-63832A)

(43) 公開日 平成22年3月25日(2010.3.25)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 7 C 7/40 (2006.01)	A 4 7 C 7/40	3 B 0 8 4
A 4 7 C 31/11 (2006.01)	A 4 7 C 31/11 Z	

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2008-235610 (P2008-235610)	(71) 出願人	000001351
(22) 出願日	平成20年9月12日 (2008. 9. 12)		コクヨ株式会社
			大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号
		(74) 代理人	100085338
			弁理士 赤澤 一博
		(72) 発明者	上田 伸行
			大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号
			コクヨファニチャー株式会社内
		Fターム(参考)	3B084 EC06 GA01

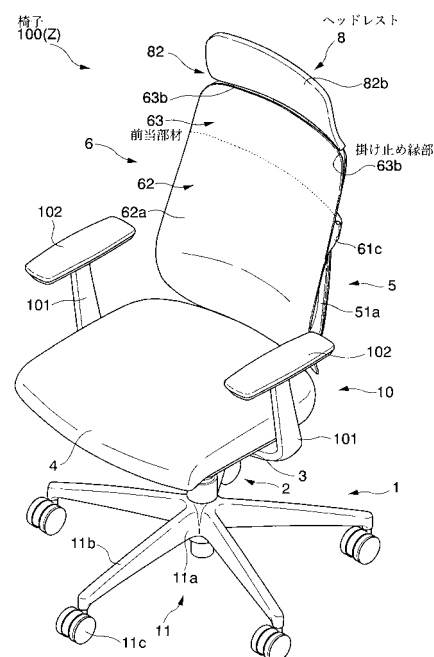
(54) 【発明の名称】 椅子

(57) 【要約】

【課題】ヘッドレストを取り付けている状態及びヘッドレストを取り付けていない状態のいずれにおいても背板に同一の外装材を用いることができる椅子を提供する。

【解決手段】背板61と、この背板61の上縁部に上縁取付部62bを掛け止めて該背板61の前面に配される外装材62と、この外装材62の上縁取付部62bが取り外された背板61の上縁部に着脱可能に装着されるヘッドレスト8と、このヘッドレスト8を前記背板61に固定するために該背板61の前面に添設される前当部材63とを備えてなり、前記前当部材63を用いて前記ヘッドレスト8を前記背板61に固定した状態で、前記背板61の上縁部から外されている外装材62の上縁取付部62bを前記前当部材63に掛けることができるように構成した。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

背板と、この背板の上縁部に上縁取付部を掛け止めて該背板の前面に配される外装材と、この外装材の上縁取付部が取り外された背板の上縁部に着脱可能に装着されるヘッドレストと、このヘッドレストを前記背板に固定するために該背板の前面に添設される前当部材とを備えてなり、前記前当部材を用いて前記ヘッドレストを前記背板に固定した状態で、前記背板の上縁部から外されている外装材の上縁取付部を前記前当部材に掛けることができるように構成したことを特徴とする椅子。

【請求項 2】

前記前当部材が、前記背板の上縁部を模した形状をなす掛け止め縁部を備えたものであり、この前当部材を前記背板の前面に添設した状態で、その掛け止め縁部が前記背板の上縁部に隙間を介して対面するように構成されている請求項 1 記載の椅子。

10

【請求項 3】

前記背板のみで背凭れを構成する仕様と、前記背板の前面に外装材をその上縁取付部を該背板の上縁部に掛け止めて配する仕様と、前記背板の上縁部に前記ヘッドレストを装着するとともに該背板の前面に外装材をその上縁取付部を前記前当部材に掛け止めて配する仕様とのいずれかを採り得るように構成されている請求項 1 又は 2 記載の椅子。

【請求項 4】

前記背板が、孔を有しない周縁枠部と、この周縁枠部に囲まれた中間面部とを具備してなり、前記中間面部が、複数の孔を設けた樹脂メッシュ領域と孔を有しない樹脂シェル領域とを備え、その樹脂メッシュ領域と前記樹脂シェル領域とを交互に配置している請求項 3 記載の椅子。

20

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、ヘッドレストを取付可能な椅子に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

従来、ヘッドレストを取り付けない状態でも椅子として使用可能な椅子においては、椅子の背板上端部にヘッドレストを取り付けるための取付部分（挿入部分）として凹部を形成したものが考えられていた（例えば、特許文献 1）。このようなものであると、ヘッドレストを取り付けることなく背板のみで背凭れを構成する仕様と、前記背板の上縁部にヘッドレストを装着する仕様とのいずれかを選択して使用することが可能となる。

30

【0003】

また、それぞれの仕様の椅子に外装材を着けることも考えられる。例えば、ヘッドレストを取り付けることなく背板のみで背凭れを構成する仕様では、外装材を前面から背板上下端部及び両側端部の裏面に回して巻き付けるようにして固定することが考えられる。一方、前記背板の上縁部にヘッドレストを装着する仕様においては、背板上端部に設けた凹部がヘッドレスト取付用の孔として使用されるため、外装材を前記同様に上端部の裏面に回して取り付けようとするならば、そのヘッドレスト取付部を回避するように外装材に孔またはスリットを設けるか、もしくはその背凭れからヘッドレストまで一体に覆うような外装材を着けることが考えられる。

40

【特許文献 1】特開 2003 - 102585 号公報

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

しかし、このようなものであると、ヘッドレストを取り付けた仕様と取り付けない仕様に対応した 2 種類の外装材を用意することが必要となり、ヘッドレストの着脱に応じてその使用を選択する必要が生じる。また、使用していない外装材の保管方法も考慮しなければならない。

50

【 0 0 0 5 】

そこで本発明は上記のような課題に着目したものであり、ヘッドレストを取り付けている状態及びヘッドレストを取り付けていない状態のいずれにおいても背板に同一の外装材を用いることができる椅子を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 6 】

以上のような課題を解決するためになされた本発明に係る椅子は、背板と、この背板の上縁部に上縁取付部を掛け止めて該背板の前面に配される外装材と、この外装材の上縁取付部が取り外された背板の上縁部に着脱可能に装着されるヘッドレストと、このヘッドレストを前記背板に固定するために該背板の前面に添設される前当部材とを備えてなり、前記前当部材を用いて前記ヘッドレストを前記背板に固定した状態で、前記背板の上縁部から外されている外装材の上縁取付部を前記前当部材に掛けることができるように構成したことを特徴とする。

10

【 0 0 0 7 】

このようなものであれば、ヘッドレストを取り付けない仕様で使用していた外装材を、ヘッドレストを取り付けた仕様においても使用することができるため、仕様の変化に応じた複数の外装材を用意する必要がなくなる。

【 0 0 0 8 】

前記前当部材が、前記背板の上縁部を模した形状をなす掛け止め縁部を備えたものであり、この前当部材を前記背板の前面に添設した状態で、その掛け止め縁部が前記背板の上縁部に隙間を介して対面するように構成されていれば、ヘッドレストを取り付けていない仕様で用いた外装材の形状をそのまま生かして使用することができる。また、前記前当部材の上縁部の形状が前記背板の上縁部の形状に近似するので、椅子の前面及び背面からの見た目が前当部材の有無にかかわらずそれほど変化しないように構成できる。

20

【 0 0 0 9 】

前記背板のみで背凭れを構成する仕様と、前記背板の前面に外装材をその上縁取付部を該背板の上縁部に掛け止めて配する仕様と、前記背板の上縁部に前記ヘッドレストを装着するとともに該背板の前面に外装材をその上縁取付部を前記前当部材に掛け止めて配する仕様とのいずれかを採り得るように構成されていれば、1つの椅子において使用方法及び見た目の印象について異なる複数の仕様を実現することを可能とする。

30

【 0 0 1 0 】

ここで、「背板のみで背凭れを構成する仕様」とは、ヘッドレスト、前当部材及び外装材のいずれも用いることなく椅子として使用する態様を指す。

【 0 0 1 1 】

このような椅子に適した背板の構造としては、孔を有しない周縁枠部と、この周縁枠部に囲まれた中間面部とを具備してなり、前記中間面部が、複数の孔を設けた樹脂メッシュ領域と孔を有しない樹脂シェル領域とを備え、その樹脂メッシュ領域と前記樹脂シェル領域とを交互に配置しているものが好適である。

【発明の効果】

【 0 0 1 2 】

本発明によれば、ヘッドレストを取り付けている状態及びヘッドレストを取り付けていない状態のいずれにおいても背板に同一の外装材を用いることができる。

40

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 3 】

以下、本発明をシンクロチルト式の事務用回転椅子 100 に適用した場合の一実施形態につき、図面を参照して説明する。

【 0 0 1 4 】

この椅子 100 は、図 1 ないし図 4 に示すように、脚 1 と、この脚 1 の上部に支持され水平旋回可能な支持基部 2 と、この支持基部 2 の上に配された座受 3 と、この座受 3 に保持された座 4 と、前記座受 3 下方から左右上方に延びて設けられた肘掛け 10 と、前記支

50

持基部 2 に後傾動作可能に設けられた背支持体 5 と、この背支持体 5 に取り付けられた背凭れ 6 と、この背凭れ 6 の上端部に着脱可能に設けられるヘッドレスト 8 とを具備してなる。

【0015】

前記脚 1 は、脚ベース 1 1 と、脚ベース 1 1 の中心部に設けられた脚支柱 1 2 とを備えてなる。前記脚ベース 1 1 は、中心部に設けたハブ 1 1 a から脚羽根 1 1 b を放射状に突出させて設けたもので、前記脚羽根 1 1 b 先端にキャスター 1 1 c をそれぞれ設けている。前記脚支柱 1 2 は、ガススプリングを主体に構成されたもので、上下方向に弾性的に伸縮し、所望位置でロックすることができるようにした通常のものである。

【0016】

前記支持基部 2 は、前記脚支柱 1 2 の上端部に取り付けられたハウジング 2 1 と、このハウジング 2 1 に剛結され前記背支持体 5 を後傾動作可能に支持する主軸 2 2 と、前記ハウジング 2 1 内に設けられ前記背支持体 5 の後傾動作に対して反発力を発生させる傾動反力発生機構（図示せず）とを具備してなる。前記傾動反力発生機構は、コイルスプリングやガススプリング等を用いた通常のものであるため、説明を省略する。

【0017】

前記座受 3 は、前記座 4 を保持するシェル状のもので、その前端側が前記支持基部 2 に前後動可能に取り付けられているとともに、その後端側が前記背支持体 5 の基端部に支持されている。

【0018】

前記肘掛け 1 0 は、前記座受 3 に取り付けられた肘支柱 1 0 1 と、前記肘支柱 1 0 1 の上端部に設けられた肘当て 1 0 2 とを具備してなる。左右の肘掛け 1 0 は、左右対称形状をなしている。

【0019】

前記背支持体 5 は、前記支持基部 2 の主軸 2 2 に後傾動作可能に支持された背支桿 5 1 と、この背支桿 5 1 の上端部に取り付けられた弾性横桿 5 2 とを具備してなる。前記背支桿 5 1 は、基端部を前記支持基部 2 の主軸 2 2 に取り付けられた下部背フレーム 5 1 b と、この下部背フレーム 5 1 b の先端に結合した上部背フレーム 5 1 a とを備えている。前記下部背フレーム 5 1 b は、金属製のもので、その外側がカバー 5 3 により覆われている。そのカバー 5 3 の外面は、前記上部背フレーム 5 1 a の外面に連続するように位置づけられている。前記上部背フレーム 5 1 a は、合成樹脂により一体成形されたもので、その上方は二股に分岐されている。前記弾性横桿 5 2 は、中間部二箇所を前記背支桿 5 1 の上端部に支持させた板ばね状のもので、その両端部で前記背凭れ 6 を支えている。

【0020】

前記背凭れ 6 は、背板 6 1 を主体に構成されたものであり、この背板 6 1 の前面に着脱可能に添え設けられた前当部材 6 3 と、これら背板 6 1 または前当部材 6 3 の前面に着脱可能に設けられた外装材 6 2 とを備えてなる。前記背板 6 1 は、背板本体 6 1 a とこの背板本体 6 1 a の左右両側部に設けた側端取付部 6 1 c と、前記背板本体 6 1 a の下端部に設けた下端取付部 6 1 b とを具備してなるもので、前記側端取付部 6 1 c を前記弾性横桿 5 2 の両端部に接続するとともに、前記下端取付部 6 1 b を前記背支桿 5 1 の下部背フレーム 5 1 b に取り付けられている。

【0021】

前記背板本体 6 1 a は、合成樹脂により作られたもので、孔 6 1 d を有しない周縁枠部 6 1 a 1 と、この周縁枠部 6 1 a 1 に囲まれた中間面部 6 1 a 2 とを具備してなる。前記中間面部 6 1 a 2 は、複数の孔 6 1 d を設けた樹脂メッシュ領域 M と、孔 6 1 d を有しない樹脂シェル領域 S とを備えたもので、その樹脂メッシュ領域 M と樹脂シェル領域 S とを交互に配置している。具体的には、前記中間面部 6 1 a 2 の樹脂シェル領域 S は、水平なベルト状のもので前記周縁枠部 6 1 a 1 の対向部位を連結するように配されている。ベルト状をなす前記樹脂シェル領域 S は、上下方向に間隔を開けて複数本平行に配されており、これら樹脂シェル領域 S 間及び樹脂シェル領域 S と周縁枠部 6 1 a 1 との間に前記樹脂

10

20

30

40

50

メッシュ領域 M がそれぞれ形成されている。前記樹脂メッシュ領域 M は、前記樹脂シェル領域 S よりも薄肉に形成されており、貫設された複数の円形の孔 6 1 d を有している。すなわち、前記樹脂シェル領域 S の前面と前記樹脂メッシュ領域 M の前面とは面一に形成されている一方、前記樹脂メッシュ領域 M の背面は、前記樹脂シェル領域 S の背面よりも凹んで設けられている。

【 0 0 2 2 】

以下、図 5 ないし図 8 を参照して説明する。ここで図 5 は、図 2 における背板本体 6 1 a の前面に設けられた外装材 6 2 及び前当部材 6 3 を取り外した状態の椅子 1 0 0 の斜視図である。また、図 6 は、図 4 における A - A 線に沿う拡大断面図、具体的にはヘッドレスト 8 から背板本体 6 1 a にかけてヘッドレスト 8 の後脚部 8 1 c の幅方向中心を通過するように垂直に切断した断面図を表す。図 7 は、ヘッドレスト 8 及び前当部材 6 3 を装着しない場合に外装材 6 2 が取り付けられる様子を表した断面図、及び図 8 は、背板 6 1 に取り付けられるヘッドレスト 8、前当部材 6 3 及び外装材 6 2 の分解斜視図を表す。

10

【 0 0 2 3 】

前記前当部材 6 3 は、前記背板 6 1 と同じ合成樹脂により一体に形成されており、背板 6 1 を介してヘッドレスト 8 の後脚部 8 1 c と接続される部材本体 6 3 a と、この部材本体 6 3 a の上方に連続して設けられ前記外装材 6 2 の上端を掛けるための掛け止め縁部 6 3 b とを具備してなる。前記前当部材 6 3 の前面は面一である一方、その背面は前記部材本体 6 3 a が掛け止め縁部 6 3 b に比べて突出しており、この突出した部分は前記背板 6 1 の前面に沿った形状を有しているため、前記部材本体 6 3 a は、前記背板 6 1 の前面に脱着可能に添えて設けられる。また、前記部材本体 6 3 a には左右 1 ヶ所ずつ、後述するヘッドレスト 8 の 2 本の後脚部 8 1 c に対応する部分に前後に貫通するねじ孔 6 3 a 1 が設けられている。前記掛け止め縁部 6 3 b は、隙間を介して背板 6 1 の上縁部に対面し、その上縁部及び左右側縁上部が前記背板 6 1 の上端部及び左右側縁と同様の形状をなしている。

20

【 0 0 2 4 】

前記外装材 6 2 は、クッション及び張地等を縫い合わせて一体に作られており、背板 6 1 前面を覆う外装材本体 6 2 a と、この外装材本体 6 2 a の上方に設けられ、前記背板 6 1 の周縁枠部 6 1 a 1 上端縁または前記前当部材 6 3 の掛け止め縁部 6 3 b に掛けられる上縁取付部 6 2 b と、前記外装材本体 6 2 a の下方に設けられ、前記背板 6 1 の周縁枠部 6 1 a 1 下端縁における左右コーナ部に掛けられる左、右のコーナ取付部 6 2 c とを具備してなる。

30

【 0 0 2 5 】

前記外装材本体 6 2 a は、前記背板 6 1 の周縁枠部 6 1 a 1 の外周縁に沿った形状である。前記上縁取付部 6 2 b は、前記外装材本体 6 2 a の上部に対応した形状をなす 1 枚の張地が、前記外装材本体 6 2 a の上方に重なって設けられ、それらの上縁部が縫い合わされていることにより、下向きの開口を有する袋状をなしている。前記左、右のコーナ 6 2 c は、前記外装材本体 6 2 a の下部に対応した左右 2 枚の対をなす張地が、前記外装材本体 6 2 a の下方左右にそれぞれに重なって設けられ、それらの下縁部が縫い合わされることにより、それぞれ右上方、左上方に開口を有している。前記コーナ取付部 6 2 c は袋状とはなっておらず、これら左右のコーナ取付部 6 2 c の間には、背板 6 1 の下端取付部 6 1 b に対応する部分にスリット 6 2 c 1 が設けられているような状態となっている。前記スリット 6 2 c 1 部分の上方、すなわち左右のコーナ取付部 6 2 c における上端部分には、それら 2 つの下端取付部 6 1 b を結合するためのバンド 6 2 c 2 が設けられている。このバンド 6 2 c 2 は面ファスナーを有しており、着脱可能に設けられている。

40

【 0 0 2 6 】

前記ヘッドレスト 8 は、前記背板 6 1 に着脱可能に取付部分を設けられたベース 8 1 と、このベース 8 1 に支持され使用者の頭部を支えるヘッドレスト本体 8 2 とを具備してなる。

【 0 0 2 7 】

50

前記ベース 8 1 は、合成樹脂により一体に形成されており、前記ヘッドレスト本体 8 2 に取り付けられるベース本体 8 1 a と、このベース本体 8 1 a から下方に延びる 4 本の前脚部 8 1 b と、この前脚部 8 1 b と平行に前記ベース本体 8 1 a から下方に延びる 2 本の後脚部 8 1 c とを具備してなる。2 本の後脚部 8 1 c は左右対称に設けられ、それぞれその下部に、前記背板 6 1 に設けられた段部 6 1 a 3 に係わり合わせるための係わり合い部 8 1 c 1 を有している。前記後脚部 8 1 c の背面は面一に形成されている一方、その前面は、前記係わり合い部 8 1 c 1 として後脚部 8 1 c の上部よりも肉厚なものとしており、ヘッドレスト 8 にかかる荷重を支えている。さらに、それらの係わり合い部 8 1 c 1 における前記前当部材 6 3 に設けられたねじ孔 6 3 a 1 に対応した場所に、凹部 8 2 b 1 が設けられ、この凹部 8 2 b 1 に金属製のインサートナット N が成型されている。

10

【0028】

前記ヘッドレスト本体 8 2 は、前記ベース 8 1 と一体に形成され前記ベース本体 8 1 a の上方から連続する合成樹脂製のバックプレート 8 2 a と、このバックプレート 8 2 a の前面及び背面を覆うクッション及び張地から成る外装材本体 8 2 b とを具備する。当該外装材 6 2 は、椅子 100 の座 4 や背凭れ 6 に用いられる外装材本体 6 2 a と同様の材質や色彩とすることが好ましい。

【0029】

本実施形態では、前記背板 6 1 にヘッドレスト 8 のベース 8 1 を着脱可能に係わり合わせるによりヘッドレスト 8 を取り付けようとしている。具体的には、前記背板 6 1 に設けられた段部 6 1 a 3 にヘッドレスト 8 の後脚部 8 1 c を弾性変形を利用して着脱可能に係わり合わせ、さらに前記前当部材 6 3 と後脚部 8 1 c の係わり合い部 8 1 c 1 とを用いて前記背板 6 1 を前後に挟み、前記前当部材 6 3 の前方から後脚部 8 1 c まで貫通させたねじ B により緊締結合させている。

20

【0030】

次に、前記ヘッドレスト 8 の背板 6 1 への取り付け及び取り外しの際の操作及び各部の作用を示す。

【0031】

すなわち本実施例に係るヘッドレスト 8 の取り付けは、ヘッドレスト 8 が取り付けられる背板 6 1 が、周縁枠部 6 1 a 1 とその周縁枠部 6 1 a 1 に囲まれる中間面部 6 1 a 2 との境界に段部 6 1 a 3 を有し、その中間面部 6 1 a 2 に複数の孔 6 1 d を有する樹脂メッシュ領域 M と孔 6 1 d を有しない樹脂シェル領域 S とを備え、前記背板 6 1 の背面における中間面部 6 1 a 2 の樹脂メッシュ領域 M と樹脂シェル領域 S との境界にも段部 6 1 a 3 が形成されているものを用いて、まず、背板 6 1 の上縁部に向かってヘッドレスト 8 の前脚部 8 1 b と後脚部 8 1 c とが前記背板 6 1 を挟み込むように上方から装着する。

30

【0032】

次に、前記背板 6 1 の段部 6 1 a 3 に、前記ベース 8 1 を構成している部材や背板 6 1 を構成している部材の一時的な弾性変形を利用して係わり合い部 8 1 c 1 を係わり合わせる。その際、前記係わり合い部 8 1 c 1 はその上端部が周縁枠部 6 1 a 1 と中間面部 6 1 a 2 の樹脂メッシュ領域 M との境界に係わり合い、その下端部が樹脂メッシュ領域 M と樹脂シェル領域 S との境界に係わり合うことで、上下方向に一定以上の力が加わらない限りヘッドレスト 8 を抜け止めし得る構成としている。

40

【0033】

さらに、前記ヘッドレスト 8 を装着した背板 6 1 の前面に前当部材 6 3、具体的には前当部材 6 3 の部材本体 6 3 a が背板 6 1 に接するように添えられることで、背板 6 1 を挟んでヘッドレスト 8 及び前当部材 6 3 が配置されることになる。その後、その前当部材 6 3 に設けられた 2 ヶ所のねじ孔 6 3 a 1 に前当部材 6 3 の前面からねじ B を差し込み、樹脂メッシュ領域 M に設けられた孔 6 1 d を通って後脚部 8 1 c に設けられたインサートナット N まで貫通させねじ止めする。これにより、前当部材 6 3、背板 6 1 及びヘッドレスト 8 が緊締結合される。

【0034】

50

一方、前記ヘッドレスト 8 を背板 6 1 から取り外す際には、ねじ止めを解除するとともに、前当部材 6 3 を取り外し、前記ヘッドレスト 8 の係わり合い部 8 1 c 1 を前記背板 6 1 から離間させるように後脚部 8 1 c に力を加え、係わり合い部 8 1 c 1 と段部 6 1 a 3 との係わり合いを解除させる。そして、その状態でヘッドレスト 8 を上方に移動させることにより取り外し操作を行う。

【 0 0 3 5 】

以上のような前記ヘッドレスト 8 の背板 6 1 への取り付け及び取り外しの操作をすることにより、本実施例に係る椅子 1 0 0 の仕様として以下の 3 つが考えられる。

【 0 0 3 6 】

1 つ目の仕様（以下、「第一仕様 X」と呼ぶ。）は、図 9 に示すように前記背板 6 1 のみで背凭れ 6 を構成する。つまり、外装材 6 2、ヘッドレスト 8 及び前当部材 6 3 のいずれも装着することなく、背板 6 1 のみで背凭れ 6 を構成する。よって、この第一仕様 X においては、前記背板 6 1 の樹脂シェル領域 S 及び樹脂メッシュ領域 M 及びこれらに設けられた凹部 8 2 b 1 や孔 6 1 d によって形成される模様が見える。

10

【 0 0 3 7 】

2 つ目の仕様（以下、「第二仕様 Y」と呼ぶ。）は、図 1 0 に示すように、前記背板 6 1 の前面に外装材 6 2 を取り付けした状態、具体的には、外装材 6 2 の上縁取付部 6 2 b を該背板 6 1 の上縁部に掛止させて構成する。第二仕様 Y は、前記第一仕様 X にその背板 6 1 の前面を覆う外装材 6 2 を装着したものであり、外装材 6 2 を装着することにより使用者の背中にフィットさせることができるとともに、外装材 6 2 の色彩や模様によっては、第一仕様 X の見た目とは異なる印象を与えることができる。つまり、第一仕様 X で視認できた樹脂シェル領域 S 及び樹脂メッシュ領域 M によって形成される模様は見えなくなる。

20

【 0 0 3 8 】

3 つ目の仕様（以下、「第三仕様 Z」と呼ぶ。）は、図 2 に示すように、前記背板 6 1 の上縁部に前記ヘッドレスト 8 を装着するとともに該背板 6 1 の前面に外装材 6 2 をその上縁取付部 6 2 b を前記前当部材 6 3 に掛止させて構成する。第三仕様 Z は、前記第一仕様 X にヘッドレスト 8 及び前当部材 6 3 を上述した取り付け方法によって取り付けした後、背板 6 1 下端部から前当部材 6 3 の掛け止め縁部 6 3 b にかけて外装材 6 2 を装着したものであり、第二仕様 Y で背板 6 1 の上縁部に掛け止めていた外装材 6 2 の上端取付部をそのまま前当部材 6 3 の掛け止め縁部 6 3 b に適用するものである。

30

【 0 0 3 9 】

以上のような構成とすることにより、本実施例に係る椅子 1 0 0 は、背板 6 1 と、この背板 6 1 の上縁部に上縁取付部 6 2 b を掛止させて該背板 6 1 の前面に配される外装材 6 2 と、この外装材 6 2 の上縁取付部 6 2 b が取り外された背板 6 1 の上縁部に着脱可能に装着されるヘッドレスト 8 と、このヘッドレスト 8 を前記背板 6 1 に固定するために該背板 6 1 の前面に添設される前当部材 6 3 とを備えてなり、前記前当部材 6 3 を用いて前記ヘッドレスト 8 を前記背板 6 1 に固定した状態で、前記背板 6 1 の上縁部から外されている外装材 6 2 の上縁取付部 6 2 b を前記前当部材 6 3 に掛けることができるように構成したので、ヘッドレスト 8 を取り付けない仕様で使用していた外装材 6 2 を、ヘッドレスト 8 を取り付けした仕様においても使用することができるため、仕様の変化に応じた複数の外装材 6 2 を用意する必要がなくなる。

40

【 0 0 4 0 】

また、前当部材 6 3 が、前記背板 6 1 の上縁部を模した形状をなす掛け止め縁部 6 3 b を備えたものであり、この前当部材 6 3 を前記背板 6 1 の前面に添設した状態で、その掛け止め縁部 6 3 b が前記背板 6 1 の上縁部に隙間を介して対面するように構成されているので、ヘッドレスト 8 を取り付けしていない仕様で用いた外装材 6 2 の形状を生かしてそのまま使用することができ、前当部材 6 3 と背板 6 1 との間に設けられた隙間があることにより、袋状になった外装材 6 2 の上縁取付部 6 2 b を前当部材 6 3 に掛けて取り付けることができる。また、前記前当部材 6 3 の上縁部の形状が前記背板 6 1 の上縁部の形状に近似するので、椅子 1 0 0 の前面及び背面からの見た目が前当部材 6 3 の有無にかかわらず

50

それほど変化しないように構成できる。

【 0 0 4 1 】

また、上述した構造を有しているため、前記背板 6 1 のみで背凭れ 6 を構成する第一仕様 X と、前記背板 6 1 の前面に外装材 6 2 をその上縁取付部 6 2 b を該背板 6 1 の上縁部に掛止させて配する第二仕様 Y と、前記背板 6 1 の上縁部に前記ヘッドレスト 8 を装着するとともに該背板 6 1 の前面に外装材 6 2 をその上縁取付部 6 2 b を前記前当部材 6 3 に掛止させて配する第三仕様 Z という、1 つの椅子 1 0 0 において使用方法及び見た目の印象について異なる 3 つの仕様を実現することができる。

【 0 0 4 2 】

さらに、前記背板 6 1 が、孔 6 1 d を有しない周縁枠部 6 1 a 1 と、この周縁枠部 6 1 a 1 に囲まれた中間面部 6 1 a 2 とを具備してなり、前記中間面部 6 1 a 2 が、複数の孔 6 1 d を設けた樹脂メッシュ領域 M と孔 6 1 d を有しない樹脂シェル領域 S とを備え、その樹脂メッシュ領域 M と前記樹脂シェル領域 S とを交互に配置しているので、樹脂メッシュ領域 M と樹脂シェル領域 S との境界及び孔 6 1 d を用いて、ヘッドレスト 8 及び前当部材 6 3 の取り付け、取り外しを容易に行うことができる。

10

【 0 0 4 3 】

なお、本発明は以上に述べたような実施形態に限らず種々変更可能である。

【 0 0 4 4 】

以上、本実施形態について詳述したが、本発明は上記実施形態に限定されるものではなく、その他各部の具体的構成は、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

20

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 4 5 】

【 図 1 】 本発明の実施形態に係る椅子を示す後方斜視図。

【 図 2 】 同実施形態の前方斜視図。

【 図 3 】 同実施形態の側面図。

【 図 4 】 同実施形態の背面図。

【 図 5 】 本発明の実施形態における外装材及び前当部材を外した状態を示す分解斜視図。

【 図 6 】 同実施形態に係る椅子を示す A - A 線断面図。

【 図 7 】 同実施形態に係る椅子の第二仕様における図 6 に対応する断面図。

30

【 図 8 】 本発明の実施形態における外装材、前当部材及びヘッドレストを外した状態を示す分解斜視図。

【 図 9 】 同実施形態に係る第一仕様の椅子を示す斜視図。

【 図 1 0 】 同実施形態に係る第二仕様の椅子を示す斜視図。

【 符号の説明 】

【 0 0 4 6 】

1 0 0 ... 椅子

6 1 ... 背板

6 1 a 1 ... 周縁枠部

6 1 a 2 ... 中間面部

40

6 1 d ... 孔

M ... 樹脂メッシュ領域

S ... 樹脂シェル領域

6 2 ... 外装材

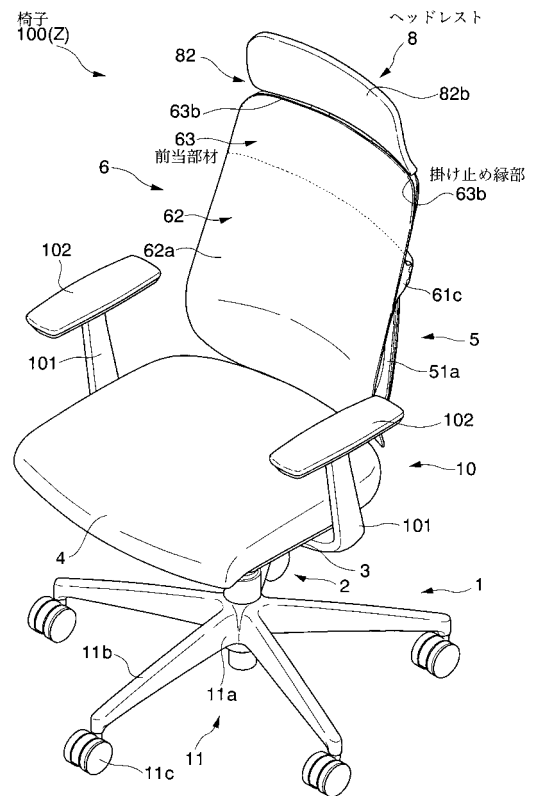
6 2 b ... 上縁取付部

6 3 ... 前当部材

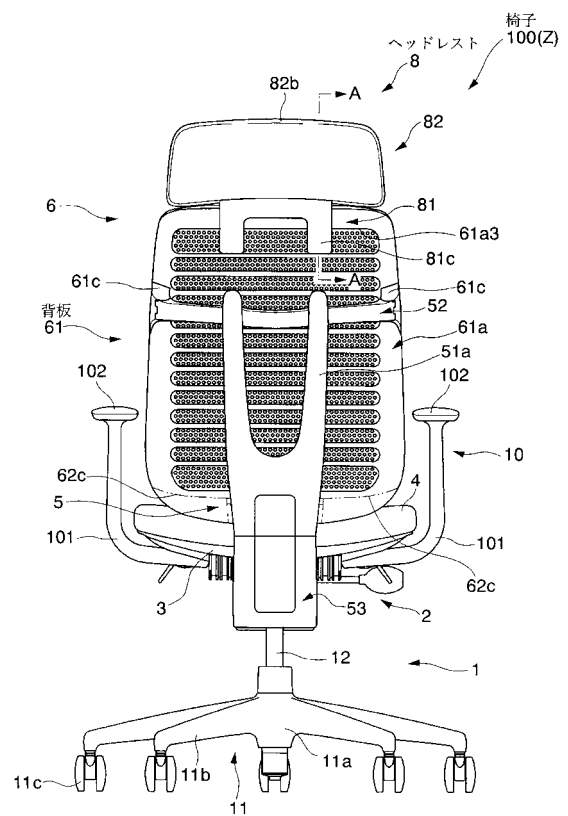
6 3 b ... 掛け止め縁部

8 ... ヘッドレスト

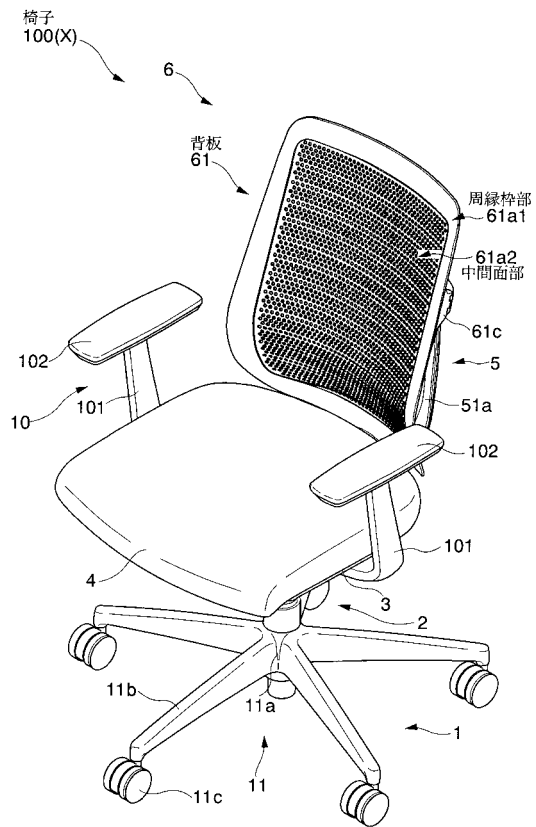
【 図 2 】



【 図 4 】



【図 9】



【図 10】

